

村長村政報告

(紙面の都合上、一部省略しています)

村民ふれあい集会

2月8日に福島県文化センターを会場に、全村避難後4回目となる村民ふれあい集会を開催しました。



税金

昨年度に引き続き原子力災害の被災者に対する減免及び課税免除を講じてきた結果、今年度の税金については、平成22年度比では昨年度同様、大幅な減少を見込んでいます。

主な税目の平成26年度分の収入見込み額は、普通税全体で約3億4390万円で、前年度決算額より7000万円ほど多くなるものの、原発事故前の平成22年度決算額に対しては、約1億6210万円の減となる見込みで、約68%の税金にとどまるものと推計しています。

有害鳥獣捕獲の状況

2月末での捕獲頭数はイノシシ86頭、サル4頭。昨年同様に120頭程少ない状況です。

農業委員 意見交換会

認定農業者や村外で営農再開をしている農業者と農政関係者が意見交換会を開催しました。

居久根伐採・屋内片付けゴミ

居久根伐採は、1月22日に完了し、伐採軒数1112軒で伐採総本数が2万5296本でした。

屋内片付けゴミの収集状況は、1月末現在収集した世帯数が1062件、収集したフレコンバッグ数が1万2500袋となっています。

屋内片付けゴミの焼却をしている小宮仮設焼却炉の稼働状況は、1月末までに352トンを焼却しています。

「すくすく」子育て支援センター

「すくすく」は、昨年12月に開所し、毎日平均5組10人程の方が利用しています。福島市民の方の利用もあり保護者同士の交流の場にもなっています。また、震災後休止していた村の乳幼児健診を約4年ぶりに「すくすく」で再開しました。

今後もさらに効果のある施設の活用について検討していきます。

避難状況

2月1日現在、県内自治体には、福島市3863人、伊達市595人、相馬市424人、南相馬市394人、川俣町537人、二本松市90人、国見町71人、郡山市55人など多くの村民が避難しています。

住まい方は、県内の民間借上げアパートに3151人、応急仮設住宅に1062人、公的宿舍等に419人、県外へ自主避難している村民は482人です。ほかに自主避難、村外の親戚宅や老健施設、病院などが1551人。いいたてホームには43人が入所しています。

いいたて ほっと安心寄っトイレ

帰還再生・加速化事業にて実施した一時帰宅用トイレ「いいたてほっと安心寄っトイレ」は、3月で設置して一年となりました。

高額家財の賠償について

村は、高額家財の賠償の手続きを進めることで東京電力との交渉を終えています。

しあわせカフェ かわまた

昨年12月、川俣町に避難している借上げ住宅の村民を対象に「しあわせカフェ かわまた」を新たに立ち上げました。

しあわせカフェは、避難先で新たな地域コミュニティの活性化をはかり、村民同士の見守りによって閉じこもりを予防したり、長引く避難生活による健康状態の悪化を予防したりする目的で開催しています。

今回新たに立ち上げた川俣しあわせカフェは渡利に続き2か所目です。



子ども達への招待事業

今年の冬も子ども達への招待事業が多くありました。

長野県松本市からスキーや松本城見学など3泊4日の体験事業、北塩原村から雪っ子体験としてスキー・スノーボード体験事業、また、いいたてスポーツクラブ主催により留学生とスポーツで交流を図る「いいたてっ子未来プロジェクト」事業が行われました。

平成26年度に寄せられた各方面からの支援にあらためて感謝申し上げます。



成人式

1月11日、飯野学習センターを会場に成人式を開催しました。式には、新成人78名中60名が出席し、多くのご来賓に見守られ、晴れて大人の仲間入りを果たしました。式では「大倉の神楽」や、メジャーリーガー川崎宗則選手をはじめ著名人や中学校の恩師からのメッセージ・ビデオが披露され、新成人の門出を祝福しました。



飯館村みらい議会

2月6日、村立小学校へ通う6年生が議員となり「飯館村みらい議会」を村役場飯野出張所で開催しました。

小学生議員からは、「ツール・飯館」や「いいたてスタンプラリー」など村をPRして復興につなげようとする提案が多く出されました。子ども達の村を思う気持ちに深く感銘を受けたところです。

